

～アートをつなげる、深める、広げる～  
日本におけるアート振興の新たな推進拠点として設立  
**独立行政法人国立美術館『国立アートリサーチセンター』**

独立行政法人国立美術館（本部：東京都千代田区 理事長：逢坂恵理子）は、大きく変動する現代社会において、アート振興を持続的かつ国際的に展開するための日本初の総合的な拠点となることを目指し、「国立アートリサーチセンター（センター長：片岡真実）」を2023年3月28日（火）、法人内に設立します。

21世紀に入り、世界の社会、経済、政治的な状況が大きく変化し、アートが社会の多様性、包摂性、持続可能性の実現に果たす役割への期待は増えています。

国立アートリサーチセンターは、「アートをつなげる、深める、広げる」をキーワードに、国内外の美術館、研究機関をはじめ社会のさまざまな人々をつなぐ新たな拠点として、専門領域の調査研究（リサーチ）に留まらず、情報収集と国内外への発信、コレクションの活用促進、人的ネットワークの構築、ラーニングの拡充、アーティストの支援などに取り組み、日本の美術館活動全体の充実を目指します。

### 『国立アートリサーチセンター』の事業 ～4つの柱～

国立アートリサーチセンターは、広く社会と連携しながら、以下の活動に取り組みます。

#### 1. 美術館コレクションの活用促進

国立美術館と国内美術館の協働によるコレクションを活用した展覧会の開催推進・発信により、日本におけるアートの認知や評価の向上、国内美術館の連携強化等の役割を果たします。また、将来的に国民的資産となりうる作品の修復、保存を推進します。

⇒ 国立美術館 コレクション・ダイアログ、国立美術館 コレクション・プラスなど

#### 2. 情報資源の集約・発信

ナショナルセンターとして日本全国の情報を包括的に集約・発信し、世界のアート分野における日本の存在感を高め、日本のアーティストや作品に関する国際的な調査研究拠点の機能を確立します。

⇒ 全国美術館収蔵品サーチ（SHŪZŌ）など

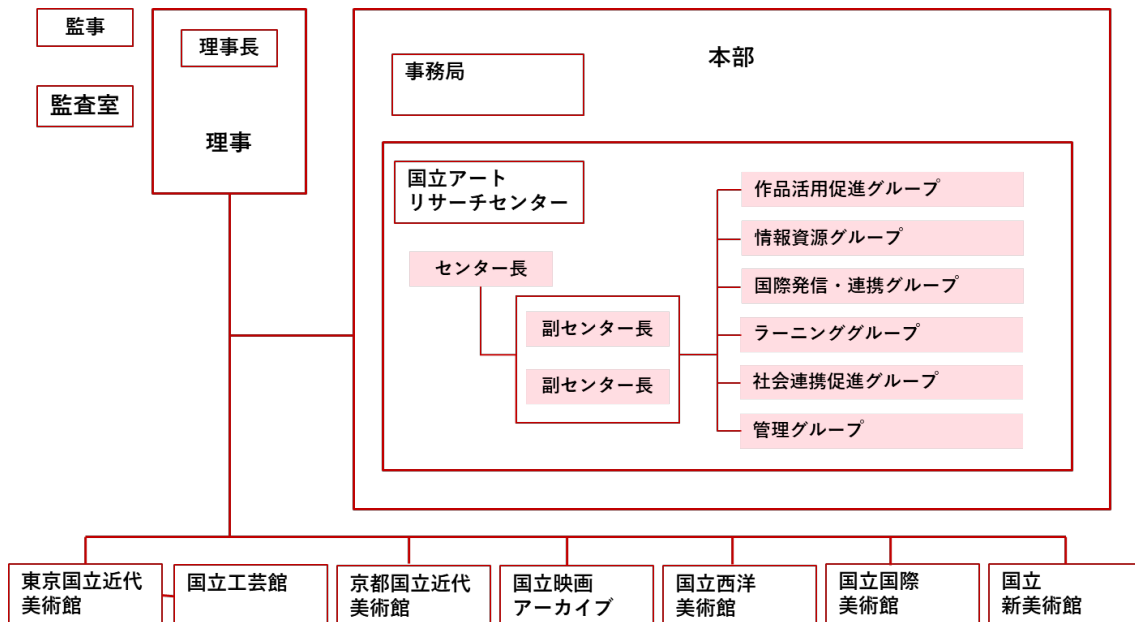
#### 3. 海外への発信・国際ネットワーク

国際的な情報発信拠点として、国際的なネットワークの構築、効果的な情報発信及び連携を推進するとともに、アーティストの支援を行うことで、日本のアートの国際的な価値・評価の向上に注力します。

#### 4. ラーニングの充実

これからの美術館に求められる、社会包摂・多様性・対話などの社会的課題やSDGsを意識しつつ、質の高いラーニングプログラムを研究開発・実践し、アートの社会的価値の向上を目指します。

## 独立行政法人国立美術館・国立アートリサーチセンター 組織図



## センター長 片岡真実コメント

世界の政治、経済、社会が複雑さや不確実性を増し、包摂性、ダイバーシティ、サステナビリティなどの追求が分野を超えた地球規模の喫緊の課題となっています。美術や美術館を取り巻くグローバルな動向を踏まえ、我が国のアートが持続的に発展していくために、アートを社会にますます広く浸透させ、同時に専門性を深めるためのプラットフォームとして、国立アートリサーチセンターの活動はこれから始まるところです。さまざまな声を反映し、学びと議論を重ねながら、日本のアート振興のために何ができるのか、みなさんとともに考えて参りたいと思います。

## 【片岡真実（かたおか・まみ）プロフィール】

ニッセイ基礎研究所にて文化芸術関連の研究員、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003年より森美術館勤務、現在同館館長（2020～）。2007～2009年はハイワード・ギャラリー（ロンドン）にて、インターナショナル・キュレーターを兼務。第9回光州ビエンナーレ共同芸術監督（2012年）、第21回シドニー・ビエンナーレ芸術監督（2018年）、国際芸術祭「あいち2022」芸術監督（2022年）。CIMAM（国際美術館会議）では2014～2022年に理事（うち2020～2022年は会長）。2018～2022年度「文化庁アートプラットフォーム事業」のステアリングコミッティー「日本現代アート委員会」座長。その他、第20期文化審議会文化政策部会臨時委員、日本ユネスコ国内委員会委員など委員、審査員等多数。



撮影：伊藤彰紀

## 組織概要

組織名称	和) 独立行政法人 国立美術館 国立アートリサーチセンター 英) Independent Administrative Institution National Museum of Art National Center for Art Research
略称	NCAR ※読み方はエヌカー
設立日	2023年3月28日(火)
ロゴマーク	 <p>独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター National Center for Art Research</p> <p>センターがアートに関わる人びとをつなげ、日本のアートが発展していく様子を、Artの「A」を元に、生物の神経細胞からシナプスが枝分かれして別の神経細胞につながろうとするイメージで表現しています。</p>
職員数	26名
公式サイト	<a href="https://ncar.artmuseums.go.jp">https://ncar.artmuseums.go.jp</a>
オフィス 所在地	〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-13-12 北の丸スクエア 2階

## 独立行政法人国立美術館について

独立行政法人国立美術館は、東京国立近代美術館（東京・竹橋）、国立工芸館（石川・金沢）、京都国立近代美術館（京都・岡崎公園）、国立映画アーカイブ（東京・京橋）、国立西洋美術館（東京・上野公園）、国立国際美術館（大阪・中之島）、国立新美術館（東京・六本木）の各館を設置・運営し、美術振興の拠点として様々な事業に取り組んでいます。

## &lt;報道関係のお問合せ先&gt;

『国立アートリサーチセンター』広報事務局（株式会社プラップジャパン内）

TEL 03-4570-2273 FAX 03-4580-9127

E-mail [ncar@prap.co.jp](mailto:ncar@prap.co.jp)

※営業時間：月～金 10時～18時（祝日・年末年始除く）

●国立美術館連携事業

地域におけるアートの鑑賞機会の充実と美術館の展示・調査研究活動の活性化に貢献することを目的として、全国の美術館等と協働し、国立美術館のコレクションを活用した2つの連携事業を準備中

国立美術館 コレクション・ダイアログ

- ・国立美術館のコレクションと、展覧会を開催する国内美術館のコレクションとで構成した展覧会を実施
- ・全国の美術館から企画を公募し開催館を選定
- ・2023年3月28日に募集の詳細を公表予定

国立美術館 コレクション・プラス

- ・開催館コレクションに国立美術館の所蔵作品1～数点を加えて構成したテーマ展示を実施
- ・全国の美術館から企画を公募し開催館を選定
- ・2023年3月28日に募集の詳細を公表予定

●作品の保存修復の取組みや調査研究の情報発信

国内外の保存修復科学の情報の集約と共有を図る

- ・海外から保存修復の専門家を招いたワークショップの開催を検討
- ・2023年11月頃の開催に向けて準備中



過去の国立美術館巡回展の例（山形美術館、2021年）

X線透過撮影：構造をみる



●全国の美術館収蔵品に関する情報集約と発信

日本全国の美術館の収蔵品情報の可視化と国際共有化を目指し、文化庁アートプラットフォーム事業により構築されたデータベース「全国美術館収蔵品サーチ（SHŪZŌ）」を継承

全国美術館収蔵品サーチ（SHŪZŌ）

- ・2021年3月 文化庁アートプラットフォーム事業により「全国美術館収蔵品サーチ（SHŪZŌ）」が公開。データ数：85館、約7万件
- ・2022年4月 事業継承。データ数：150館、約14万3千件
- ・2023年4月 持続的運用体制を整備。データ数：163館、約16万件（予定）

●国際的リサーチセンター機能確立に向けた活動

日本のアートについて、国内外の調査研究に資する情報の集積と日英二か国語での提供

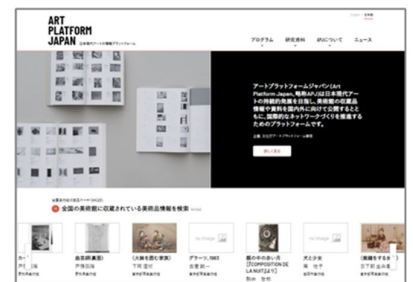
「日本のアーティスト事典（仮称）」（新規）

- ・日本のアーティストについて、基本データのみならず、国内外の調査・研究に資するよう主要な展覧会・所蔵先・文献等の情報も収録
- ・2023年9月頃公開に向けて準備中

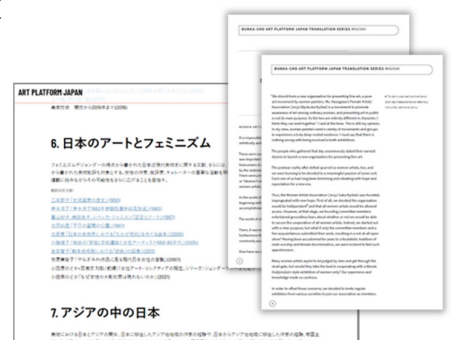
文化庁アートプラットフォーム事業のウェブサイトからのコンテンツを2023年度から継承

●メディア芸術データベースの継承

- ・文化庁が2010年度から取り組んできた「メディア芸術データベース」を、2023年度からの継承に向けて準備中



「全国美術館収蔵品サーチ（SHŪZŌ）」を持続的に運用



文化庁APJの英訳文献コンテンツを継承



●健康とウェルビーイング事業

人々の健康や幸福に関わるアートの機能に注目し、福祉・医療分野の機関や大学等と連携して調査研究を実施

超高齢社会に向けての美術館プロジェクト

- ・英国の美術館などにおける先進事例の調査
- ・認知症の方に対応した鑑賞デジタルツールの開発とこれを用いた介護者対象プログラムの検討
- ・JST「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」による、福祉・医療分野の機関や大学等と連携した取り組み

健康とウェルビーイングに関する国際シンポジウム

- ・主に英国より美術館関係者を招いてシンポジウムの開催を検討中 (2023年4月頃、詳細を公表予定)

●アクセシビリティ向上にむけた取り組み

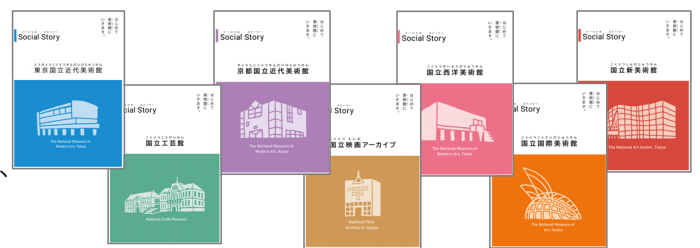
だれもが美術館やアートとの関わりができるよう現状の課題を調査し、アクセシビリティを向上する資料やツールなどを開発

ソーシャルストーリー

- (主に発達障害のある方と家族に向けた美術館案内)
- ・2022年度に国立美術館7館分を制作
- ・2023年度は、国立美術館での活用を進めるとともに、全国の美術館への普及のために関係者向けのオンライン講座を検討中



高齢者を対象とした対話鑑賞ワークショップ 国立西洋美術館  
Photo by Nakajima Yusuke



各館のソーシャルストーリー

具体的な事業の例ー海外への発信・国際ネットワーク

●日本のアートに関する海外発信と国際的な人的ネットワークの構築

(2023年4月国際発信・連携Gを発足させ、具体的な事業を検討)

日本のアートの国際的な価値の向上に資するための情報発信拠点として、

- ・日本のアートに関する文献の翻訳・発信
- ・海外の専門家を招待したワークショップ等による国際的な人的ネットワークの構築
- ・現存作家の国際発信を支援する活動等について検討



文化庁アートプラットフォーム事業 現代アートワークショップ  
2019年



文化庁アートプラットフォーム事業 現代アートワークショップ  
2019年